

2019年度年次報告書



特定非営利活動法人

河北潟湖沼研究所

Kahokugata Lake Institute

流域の森や農地に支えられた汽水生態系の復活により、河北潟から豊かさを持続的に享受できる地域を目指します。

＜河北潟湖沼研究所が目指す河北潟の姿＞

流域全体が無農薬となり、ヤマトシジミ、ウナギなどが生息する河北潟が復活し、潟漁が営まれて食卓も豊かになります。水草が増えて水も透明になり、清湖のきれいな水と自然が取り戻された流域にはいろいろな地場産業が発展しています。「河北潟」は地域に活力を与え続けます。

ごあいさつ

平素より河北潟湖沼研究所の活動にご支援、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

2019年度は、新しい河北潟ビジョンの3年目の取り組みとして、河北潟の再汽水化に係る課題の抽出と再汽水化のシミュレーションに向けた基礎データの収集に取り組みました。地域の皆様へのアンケート調査からは、河北潟と親しんだ経験が時代とともに変化しており、干拓前に河北潟の魚を食べていた世代や舟で河北潟に出たことがある人たちでは、河北潟を大切に考えている傾向が強くなりましたが、河北潟との接点が少なくなっている若い世代では、河北潟への関心が薄くなっていることが分かりました。これまで河北潟との接点がなかった方々や、新しく河北潟周辺の住民となった方々も参加しやすい活動を展開することが課題として挙げられます。

またアンケートからは、現在の河北潟との関係の多くは農業用水を通じてのものであり、農業用水の確保が河北潟の再汽水化に対して一番懸念されていることが示されました。同時に、河北潟の将来については、多くの方々が、自然が守られ農業を基盤とした持続可能な地域となることを求めていることが分かりました。私たちの目指す河北潟ビジョンに示される再汽水化の方向性は、河北潟からの恵みを受け持続可能な地域となる上で必要と考えられることであり、多くの地域の皆様と一致できる方向性であると考えています。農業用水については取水経路の見直し等により解決を図ることを提案しておりますが、調査、研究を進め、より具体的な提案ができるようにすることが、今後の課題として挙

げられます。地域の皆様や研究成果に基づき、常にビジョンとミッションの見直しを図りながら、現実的で夢のある河北潟の将来を皆様と共につくっていかせたいと願っております。

2019年度は毎年の活動として、市民参加による七豊米の米づくり、河北潟クリーン作戦実行委員会、河北潟自然再生まつり実行委員会の事務局の活動、外来植物除去活動などに加え、地球環境基金の助成を受け、流域ツアーの取り組みを行いました。8月には、森下川の上流から下流まで川の様子を見ながら生きもの調査を行いました。身近に川の生きものを見ることで参加者の皆様にも喜んでいただくことができました。11月には河北潟と山の自然を比べてみるツアーを行い、在留外国人の方々も多く参加しての内容の濃い体験ツアーとなりました。

高木仁三郎市民科学基金より研究助成を受け、先に述べたアンケート調査と河北潟と大野川の環境調査を行いました。その成果の一部は9月に開催された日本陸水学会の自由集会で報告されたほか、3月に開催したワークショップの中で議論されました。アクト・ビヨンド・トラスト助成を受けて、市民参加型の田んぼの生きもの調査を実施しました。その成果は12月に開催したシンポジウムの中で報告されました。また調査結果を紹介するパンフレットを配布しました。

2019年度は多様な活動を展開することができました。引き続き河北潟のビジョンとミッションに基づいて旺盛に活動を展開していく所存です。皆様のさらなるご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

河北潟湖沼研究所 理事長 高橋 久

河北潟を再生したい！

ビジョンを実現し、河北潟を再生するため、さまざまな活動を展開しています。2019年度は河北潟及び大野川での調査、シンポジウムでの情報交換、アンケート調査に力を入れました。

課題 河北潟の水がなかなかきれいにならない
流域住民と河北潟との接点が少ない

取組 専門家によるセミナーと市民参加型調査の実施
流域連携、農薬の影響をテーマにしたシンポジウム実施
流域住民アンケートの実施、河北潟研究奨励助成実施

2019年度の成果 大野川汽水域の現状把握
流域住民の河北潟に対する意識を把握

河北潟を陸水学的に調べる・市民も参加し調査等実施

2019年度、河北潟の再汽水化に向けた基礎研究をすすめました。河北潟では、富栄養化や透明度の低下が問題となっていますが、私たちは再び海水の入る湖に戻すこと(再汽水化)が、ひとつの有効な解決方法であると考えています。

そこで再汽水化によって解決する環境問題と、再汽水化によって起こりうる環境問題、再汽水化する上での社会的困難性について解析し、課題の解決方向と必要な研究について、まとめる活動をすすめました。調査では一般参加者も募り、市民も交えて調査を行いました。河北潟の再汽水化を進めるためには、地域住民の合意が得られていることが前提となるからです。調査前にはレクチャーも実施しました。

調査前のレクチャー

- ①河北潟の環境問題(講師:高橋久、実施日:7月13日)
- ②河北潟の再生(講師:永坂正夫、実施日:7月20日)
- ③河北潟と水質(講師:高野典礼、実施日:7月24日)

現地調査

- ・河北潟や干拓地に流入する伏流水調査
- ・河北潟において、採水、採泥、水質測定、水生生物のサンプリング等の実施
- ・大野川湖岸現状調査
- ・大野川生物調査、ヤマトシジミの生息状況調査
- ・大野川(河北潟防潮水門～金沢港)塩分及び懸濁物質量等の動態について調査
- ・汽水性の底生動物の生息状況調査

アンケート調査

河北潟の自然再生に関するアンケート(P.5参照)

調査より、大野川への海水の遡上量は、当初想定していたよりも大きい可能性があることが分かりました。これにより、過去の塩分濃度と大野川の河道形態の改変を過去に遡って検証する必要があることが指摘されました。また現在の汽水域の底生動物相は貧弱であることが示され、とくに大きな問題としてはヤマトシジミが見つからなかったことが挙げられました。現在の大野川は良好な汽水域といえる状態ではないこと、良好な汽水域が形成されるためには、ある程度の拡がりが必要であろうことが示唆されました。

河北潟の調査では、概ねヘドロなどの堆積はなく、底泥の状態が良いことが分かりました。

ワークショップ 河北潟の自然再生と再汽水化について

2020年3月29日(日) 13:00～15:30

こなん水辺公園管理学習棟

コーディネーター:菊地直樹さん

(金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター准教授)

河北潟の自然再生に関するアンケート調査の結果をふまえて、地域住民の皆様とともに河北潟の将来像を考えるワークショップを実施しました。



*調査・研究等の実施にあたり、高木仁三郎市民科学基金の助成金を活用させていただきました。

シンポジウム 水田の生物多様性と農薬使用について ～使わないでいい農薬を使わないことで生きものも人もhappy!～

2019年12月22日(日) 13:30～16:30 ITビジネスプラザ武蔵研修室1

河北潟沿岸には田んぼが広がっており、そこでの農薬や肥料の使用状況は河北潟の状態とも大きく関係してきます。本シンポジウムでは、大塚氏より田んぼの生物多様性に関する研究成果、関根氏より農薬使用が誘導される社会的状況と打開方向の提案、川原氏より農薬使用を減らす実践から見てきた可能性について、報告されました。ディスカッションでは、農薬使用を減らす様々な技術が確立されてきていること、しかし農薬削減への抵抗が根強いこと、知らせること、見える化することで消費者の理解が得られることなどが話し合われました。

< プログラム >

○主催者挨拶 高橋 久(河北潟湖沼研究所)

○特別講演

「水田の生物群集の複雑さ」大塚泰介(琵琶湖博物館)

「食の安全とネオニコチノイド系農薬」関根彩子(グリーンピース・ジャパン)

○報告

「生きもの元気米の生きもの調査からわかったこと～市民参加型調査の成果～」川原奈苗(河北潟湖沼研究所)

○パネルディスカッション 使う必要が無い農薬を使わないことでなにが変わる コーディネーター 高橋 久



*実施にあたりアクト・ビヨンド・トラスト「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成金を活用させていただきました。

河北潟流域シンポジウム 河北潟から考える多様な主体の連携による流域の保全

2020年3月8日(日) 13:15～16:45 近江町交流プラザ集会室

河北潟の水は、周辺の山谷から流れ出し、流域の田畑を潤し、住宅地や商業地を通して、河北潟に注いでいます。流域全体で、健全な水を生み出す取り組みや、水系を活かした自然環境の保全の取り組みができれば、河北潟の環境改善につながるばかりか、流域全体が豊かで住みやすい地域とすることができます。全国では、そうした流域連携の取り組みが既に行われています。先進地での取り組みを河北潟水系での問題と重ね合わせることで、問題解決の方向を探るため、本シンポジウムを実施しました。河北潟湖沼研究所のシンポジウムとしては初めて、ネット中継を取り入れて実施しました。

特別講演では、はじめに佐竹氏より、コウノトリが住む環境は、人にとっても豊かな環境である、という考えの下、市民、行政、農家、JA等、様々な方が連携して取り組みが進んできた経緯についてお話いただきました。次に金井氏より河川環境、河川でのモニタリングや河川法の現状と課題についてお話いただきました。

事例報告では河北潟の取組や河北潟流域住民に対するアンケート結果報告、金腐川流域からは植田氏より、金腐川の変遷や、金腐川での環境学習、水質調査、今後の課題等をご紹介いただきました。森下川流域の牧山町で活動する橋田氏からは、地元農産物を使ったブランド作りやSDGsの取組、これからの展開等をご紹介いただきました。パネルディスカッションでは河北潟における流域連携の必要性について説明がされ、流域連携を作るためにどうしたらよいかを話し合いました。

*実施にあたり地球環境基金の助成金を活用させていただきました。



< プログラム >

○主催者挨拶 川原奈苗(河北潟湖沼研究所)

○特別講演

「多様な主体の連携による円山川水系の自然再生とコウノトリ野生復帰の取り組み」
佐竹節夫(コウノトリ湿地ネット代表)

「鳥の生息保全と河川整備」
金井 裕(日本野鳥の会参与/ラムサール・ネットワーク日本共同代表)

○事例報告

「河北潟流域アンケートと河北潟流域をめぐる活動」
番匠尚子(河北潟湖沼研究所)

「夕日寺の再発見・100年先の未来へ」
植田卓志(夕日寺1300年協議会/夕日寺歴史研究会)

「まっきゃまのあゆみ」
橋田由美子(農事組合法人まっきゃま)

○パネルディスカッション
河北潟で求められる流域連携による保全と管理
コーディネーター 高橋 久(河北潟湖沼研究所)

調査研究

3つのアンケート調査実施

ビジョン実現のためには流域住民の賛同がかせません。2019年度は流域住民を対象として、河北潟や周辺の自然環境に関するアンケート調査を実施しました。

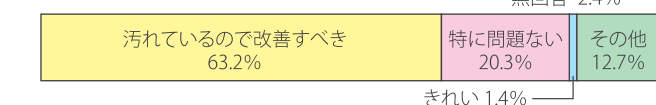
河北潟の自然再生に関するアンケート

目的:河北潟流域住民が望む河北潟の姿および再汽水化についての住民の意識を把握する。

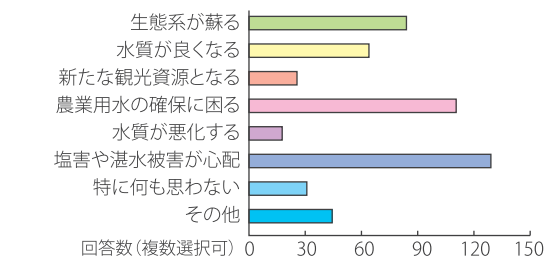
方法:流域1,020戸にアンケート用紙を配布、返信用封筒を同封。

結果:291通の回答がありましたが、回答者の2/3は60才以上でした。河北潟が汚れているので改善すべきという意見は63%で、汚れていると感じている人の割合は高齢者ほど高い一方、問題ないと答えた人は10-30歳代の若い世代で多くなりました。河北潟を再汽水化することについては、生態系が蘇る、水質が良くなるといったメリットを感じる人が多い一方、塩害等の被害を心配する人も多くいました。再汽水化しても水確保持保や塩害回避が可能なことを根拠をもって示すこと、若い世代が河北潟とふれあうことができる場を作る取り組みが必要であることがわかりました。

【河北潟の水質に対する意識】



【河北潟の再汽水化についてどう思うか】



*高木仁三郎市民科学基金の助成金を活用させていただきました。

河北潟研究奨励助成実施

河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積を図り地域の持続的な社会のあり方を検討すると共に、地域の研究ネットワークを広げる取り組みの一つとして、専門的知識を持った研究者や学生の方々、持続的社会的実現を目指し活動を続けてこられた方々が取り組む研究を奨励し助成を行っています。2019年は、当研究所の活動に賛同をいただいた方々からの寄付と、事業活動収益を原資として実施しました。

「河北潟総合研究」公開しています

河北潟研究奨励助成での成果等を掲載している冊子「河北潟総合研究」はウェブで公開しています。一部1,000円で販売もしております。河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。



河北潟総合研究

田んぼの農薬と生態系アンケート

目的:田んぼで使われているネオニコチノイド系農薬等の浸透性殺虫剤について、情報提供と意識調査をする。

方法:2019年夏の田んぼの生きもの調査結果に、浸透性殺虫剤と畦除草剤の説明を加えたパンフレットを作成、そのパンフレットとアンケートを同封し、金沢市内30の地域2,000戸に返信用封筒と共に配布、同内容のWEBアンケートも実施した。

結果:各戸配布では167通、WEBからは30名の回答がありました。ネオニコチノイド系農薬等の浸透性殺虫剤についてまったく知らなかった方が130名おり、今回のパンフレットを読んで殺虫剤や畦除草剤に対する意識が変わったと回答した方が114名みられました。回答者の属性としては母親が多く、農業に接していない方々に、広く情報提供できたようです。

*アクト・ビヨンド・トラストの助成金を活用させていただきました。

河北潟流域アンケート

目的:河北潟流域全体の自然環境保全活動について考えるための基礎資料を得る。

方法:河北潟流入河川のうち、森下川及び金腐川の上流から下流まで各4地域で、1,004戸に返信用封筒を同封し配布。

結果:回答は367通ありました。2017年度にも同地域で同内容の調査を行い、その追跡調査です。森下川や金腐川と河北潟とのつながりについて知っている人の割合は前回と比べ増えました。参加したことのある環境保全活動は、河北潟クリーン作戦等のゴミ拾いという回答が多く、下流の方からは流れてくるゴミを憂う声もありました。流域で連携した保全活動が求められます。

*地球環境基金の助成金を活用させていただきました。

2019年度 河北潟研究奨励助成 決定

申請者 山本将也さん
(所属:兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

助成金額 100,000円
研究課題 環境DNAメタバーコーディングによる河北潟に生息する魚類の種多様性解析と定量分析

申請者 久野 真純さん
(所属:東京大学大学院農学生命科学研究科)

助成金額 100,000円
研究課題 河北潟における鳥類の群集組成と多様性の評価

ご支援をお願いいたします

河北潟研究奨励助成は、みなさまからのご支援で成り立っています。河北潟の環境保全のための研究へのご支援・ご寄付をお願いいたします。「河北潟研究奨励助成」への使途を指定してのご寄付も可能です。



ご寄付はこちら

農地と生きものをまもりたい!

課題 河北潟地域の田んぼの生きものが減っている、田んぼで使われる肥料や農薬が河北潟の水質負荷要因となっている

取組 必要のない農薬を使わない農地を増やす
市民参加型田んぼの生きもの調査実施



生きもの元気米

河北潟のまわりには田んぼが広がっていますが、現在の田んぼは昔と比べると生きもの種類も数も大幅に減少しています。大きな原因は、殺虫剤の一斉空中散布と、生きものすみかとなる畦の草をすべて枯らしてしまう畦の除草剤散布だと、私たちは考えています。この問題を解決する取り組みとして、2014年より生きもの元気米を始めました。生きもの元気米では、①農薬の空中散布をしない+浸透性殺虫剤(ネオニコ含む)を使用しない、②畦の除草剤を使わない、という2つの条件で農家と契約し、栽培圃場では河北潟湖沼研究所が生きもの調査を実施し、田んぼ一枚ごとに生きもの元気米認証をしています。環境保全型の農業を実践し、田んぼの生きものが減っている大きな原因を取り除き、農地の生物多様性を保全するとともに、消費者に対し田んぼの生きもの調査結果をPRし、農地の環境保全への意識を高め、安心して食べられる農産物を届ける活動です。



生きもの元気米パッケージ



飲食店を展開する株式会社こよみでは、「麵処こよみ」等店舗で、生きもの元気米を使っています!



参加型調査の様子

市民参加型・田んぼの生きもの調査

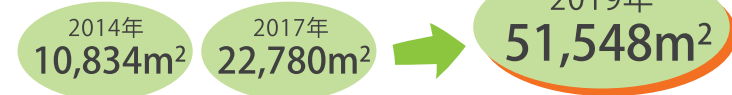
これまで田んぼの生きもの調査は、スタッフのみで行っていましたが、2019年度は一般参加を募り実施しました。夏に行われる無人ヘリによる浸透性殺虫剤の一斉空中散布前後に、農薬を使用した田んぼと、農薬不使用の生きもの元気米田んぼで、比較調査を行いました。親子参加が多く、参加者からは「空中散布前の調査ではイナゴ等がいたのに、散布後はイナゴがあまりいなくて、農薬の影響を実感した」「普段はクモを見ると嫌な気分がしませんが、田んぼでは嫌な気分にならなかった。少し学んだり環境が違うだけで今までと異なるものの見方になっておもしろかった」といった感想がありました。農薬や田んぼ、生きものこと等、自然環境への理解を深める場として参加型調査は意義があり、今後も継続していきます。

*市民参加型調査の実施にあたり、アクト・ビヨンド・トラスト「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成金を活用させていただきました。

2019年度の成果

農薬を減らした圃場面積増加
生きもの元気米生産量増加
市民参加型田んぼの生きもの調査にのべ46人参加

圃場面積



*稲作田8枚+蓮田(レンコン)6枚

生きもの元気米生産量



生きもの元気米情報はこちら



持続可能な農業をまもりたい!

課題 農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、農地の細やかな手入れが難しくなっている

取組 農地での協働作業を実施。農地と市民をつなぐ体験型田んぼ作業や、農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動実施

七豊米

七豊米は2012年より開始しました。日々の農作業はスタッフとボランティアの方々で行い、農薬・化学肥料を使わずにお米を栽培しています。除草、泥上げ、畦塗り、苗代作り、田植え等農作業体験の場を提供するとともに、河北潟地域の農地の環境や、生きものについて学んでいただける場を提供しています。田んぼと土水路の生きものを守り、人と農地をつなぐ窓口となっています。田植えや稲刈り等は体験イベントも実施しています。田んぼの生きもの、田んぼの側にある土水路にすむ生きものを守ること、そして地域の方に農地に実際に触れていただき、昔ながらの米作りを伝えていくことを目指して、2枚の田んぼ(約1400m²)で活動をしています。ここで収穫したお米、また活動そのものを「七豊米」と呼んでいます。



2019年度の成果

七豊米田んぼ作業にのべ115人参加
田植え、観察会、稲刈りイベントを実施

外来植物除去活動

河北潟周辺の水辺に繁茂する外来植物チクゴスズメノヒエは、沿岸の田んぼの水路にも広がり、水の流れをふさいだり、在来植物の生息場所を奪うなどの問題があります。対策にはこまめな手入れが必要です。他団体と協力しながら、河北潟湖沼研究所は除去活動実施場所の選定、対象植物の調査や記録、活動当日の実施運営等を行っています。2019年はセイタカアワダチソウの除去も行いました。



実施:河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力:河北潟湖沼研究所

2019年度の成果

協働で3日間、水路および周辺の外来植物除去活動を実施、のべ71人参加

潟と砂丘と人で環をつくりたい!

課題 河北潟や周辺農地と都市部を近づけたい、内灘砂丘地の畑で使われる農薬や肥料が河北潟の汚濁負荷の一因となっている

取組 金沢市中心部で農産物を通じて河北潟や活動をPR
内灘砂丘地の畑で野菜を無農薬、無化学肥料栽培

すずめ野菜

河北潟のとなりにある内灘砂丘地の畑で、農薬や化学肥料を使わず野菜を栽培しています。河北潟には内灘砂丘からも水が流れ込んでいます。砂丘地の畑で農薬や肥料の量を減らしていくことは、河北潟の水質改善にもつながります。河北潟と内灘砂丘で、水のよい循環を作り、地域の環境問題が改善することを目指しています。栽培した野菜は、ゆうぐれ金曜マルシェでの直接販売等を通じて、河北潟地域の農産物として、環境保全活動とともにPRをおこなっています。2019年は約40種類の野菜を生産しました。6月には石川高専の留学生が研修として生産活動に参加しました。合同会社金沢市民発電所には出資者への御礼品にすずめ野菜セットを利用いただきました。また11月にはグリーンピース・ジャパンのイベント「ネオニコフリー新米のおにぎりとおrganic野菜で実りの秋を祝おう 新米ベジパーティー」において提供される等、色々な団体個人の方から「すずめ野菜」を環境保全をすすめる活動に利用いただくとともに応援いただいています。



金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で「農家が届けるおいしい週末」をコンセプトに、冬季を除いた毎週金曜夕方、河北潟周辺や干拓地で栽培された農産物を金沢駅周辺住民に直接届けるマルシェを実施運営しています。2019年は4月から11月まで、台風により中止した2回を除き、32回実施しました。農産物と共に河北潟の自然や環境保全活動についてもPRをしています。都市部住民の方と定期的に直接対話できる貴重な場です。



8月9日のゆうぐれ金曜マルシェ

2019年度の成果

無農薬での野菜栽培を継続し、ゆうぐれ金曜マルシェでの販売やイベント等を通じて、河北潟の農産物や自然をPR
ゆうぐれ金曜マルシェを32回実施

河北潟流域全体の保全を進めたい!

課題 流域単位の取り組みが遅れている、連携の仕組みがない

取組 流域の連携を作るための他団体との協働の取組実施、
上中流域も含めた流域全体で取り組むイベント企画

河北潟クリーン作戦

主催:河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局:河北潟湖沼研究所

毎年4月に数百名規模で実施している河北潟の一斉清掃活動です。2019年は4月14日に行われ、714名が参加し、約4トンのゴミが回収されました。2018年より企業、団体から協賛金をいただいております。2019年は22の企業・団体に協賛いただきました。2020年1月からは第26回河北潟クリーン作戦の実施にむけ、実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、チラシやポスター制作等イベントの裏方として活動しています。

河北潟自然再生まつり

主催:河北潟自然再生まつり実行委員会
共催:河北潟湖沼研究所

河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動をPRするとともに色々な体験イベントが行われます。2019年は10月20日(日)に実施、約350名が参加しました。河北潟湖沼研究所は準備段階から中心としてかわり、実行委員会の開催や他の共催団体との調整、広報等を行い、また当日は稲わらでの小物作りや生きものさがし、昔の河北潟について語る座談会等を実施しました。多くの地域住民に参加いただくことができました。



4月14日河北潟クリーン作戦

10月20日河北潟自然再生まつり

2019年度の成果

河北潟クリーン作戦に700人参加
河北潟自然再生まつりに350人参加
流域各地の活動や自然環境について理解を深めることができた

河北潟流域ツアー

河北潟流域への理解を深めるため、流域各地の活動や自然環境について学べるプログラム作成を展望しています。2019年度は試験的に3回、ツアーを実施し、計70名の方にご参加いただきました。

① 上流と下流をみてみよう・きょうは一日自由研究

2019年8月20日(火)実施

河北潟に流入する河川の一つ、森下川の上流(田島川)、中流、下流を周り、各地点の水生物、石、水質等を観察したり調べたりしました。各地点で採水した水は、パックテストも行いました。

② 河北潟と山の自然をくらべてみよう

2019年11月4日(日)実施

河北潟と、そこに流れ込む水路の上流の自然を見比べてみました。こなん水辺公園や野鳥観察舎等、河北潟周辺で植物や野鳥を観察した後、津幡森林公園に移動し、山の自然を観察しました。水の流れの始まりも探して、斜面から水が流れ出ている所や、地面から水がわき出ている場所も観察しました。

③ 野鳥観察編

2020年1月19日(日)実施

どうして河北潟には野鳥がたくさんいるんだろう?をテーマに、こなん水辺公園、河北潟沿岸部の田んぼ、干拓地とまわり、田んぼにいるコハクチョウの群れや水鳥等を観察してまわりました。野鳥と共に、野鳥のいる河北潟周辺の自然環境も観察していきましました。

*河北潟流域ツアー実施にあたり、地球環境基金の助成金を活用させていただきました。



8月21日河北潟流域ツアーの様子

ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご協力、ご寄付で成り立っています。
2019年度は全体で938,160円のご寄付を賜ることができました。また事業活動の面からも企業等のみなさまからのご支援をいただきました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■ご寄付をいただきました

- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 165,000円
「eco保険証券・Web約款選択件数に応じた寄付活動」に基づく寄付金
- その他個人及び団体のみなさまより 計773,160円

■助成金を活用させていただきました

- 地球環境基金 3,100,000円
活動名：河北潟の水辺保全活動をすすめるための流域が
つながる仕組みづくり
- アクト・ビヨンド・トラスト 1,000,000円
活動名：平野部の水田ではネオニコを使う必要が無いこ
とを証明し見える化する
- 高木仁三郎市民科学基金 500,000円
活動名：河北潟の再汽水化に向けた基礎研究①再汽水化
する上での課題の整理



25周年を迎えました

河北潟湖沼研究所は、2019年10月14日に設立25周年を迎えました。11月24日には、25年を語る懇談会（河北潟自然再生カレーのお披露目と試食つき）、記念シンポジウム「とりもどそう！河北潟 泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水」を開催しました。懇談会では設立当初からのメンバーである桂木健次氏から、ネット中継でこれまでの河北潟湖沼研究所の取り組みの基本的な方向性についての総括的なお話をいただき、この路線を進めていくことが大切であることを、力強く語っていただきました。同じく創立時のメンバーで、設立の仕掛け人である藤木正範氏からは、設立時のエピソードや設立時の困難とそれを乗り越えていったことについて、中国やモンゴルで展開してきた取り組みについてお話いただきました。シンポジウムでは再汽水化プロジェクトや流域の水質改善のための研究の進捗状況、生きもの元気が生物多様性の改善につながっているかを検証する市民参加型調査の結果について紹介し、それぞれ到達点について確認しました。

河北潟自然再生カレーは、河北潟と日本海、内灘砂丘を模したふたがけカレーで、河北潟は干拓地で栽培されている大豆が入ったトマト味のカレー、日本海は河北潟と日本海を行き来するモクズガニのカニ味噌をベースにした海鮮カレーです。それぞれのカレーは、内灘砂丘を模したごはんと防潮水門を表すサツマイモチップスで仕切られています。別々にカレーを味わった後、ふたつのカレーを混ぜ合わせていただきます。汽水にすることでさらにおいしくなる仕掛けで、私たちの新しい河北潟ビジョンを体現したものです。



2019年度決算報告

貸借対照表

2020年3月31日

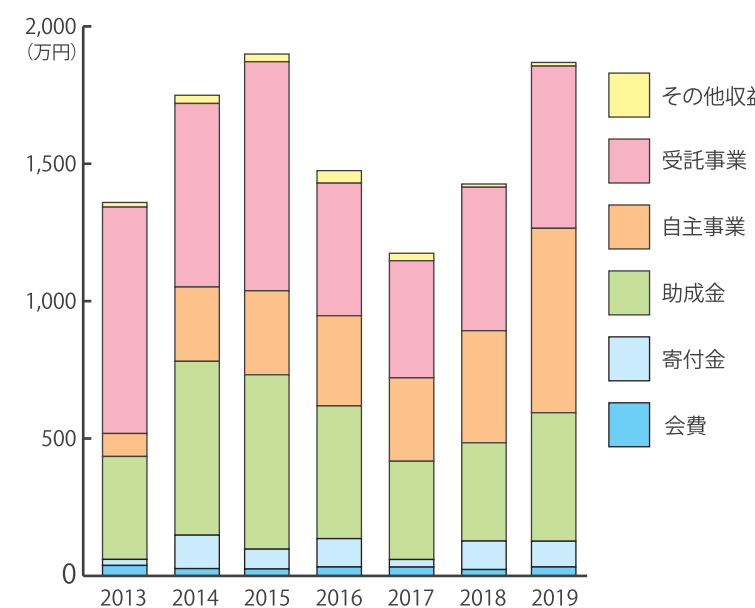
項目	金額 (円)
資産の部	
【流動資産】	
現金及び預金	2,691,049
売掛金	1,868,962
未収補助金	1,400,000
商品	519,000
前払費用	268,000
流動資産合計	6,747,011
資産の部合計	6,747,011
負債の部	
【流動負債】	
未払金	215,150
未払法人税等	71,000
預り金	79,251
流動負債合計	365,401
負債の部合計	365,401
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産	5,085,446
当期正味財産増減額	1,296,164
正味財産の部合計	6,381,610
負債及び正味財産合計	6,747,011

活動計算書

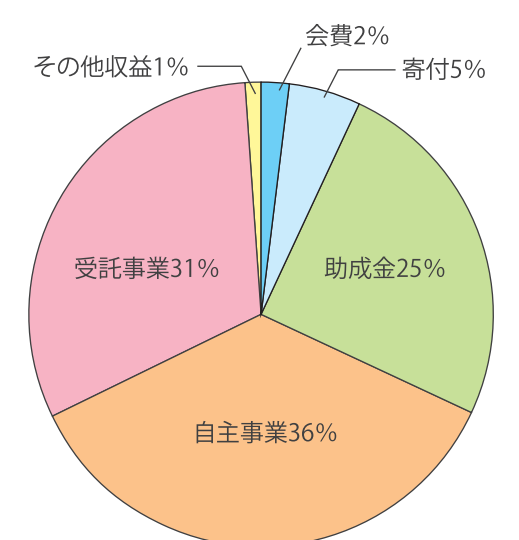
自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

科目	特定非営利活動 にかかる事業	その他の事業	合計 (円)
【経常収益】			
受取会費	324,000		324,000
受取寄付金	938,160		938,160
受取助成金等	4,676,608		4,676,608
事業収入	10,102,261	2,564,040	12,666,301
その他収益	132,703		132,703
経常収益合計	16,173,732	2,564,040	18,737,772
【経常費用】			
事業費			
人件費	5,930,410	1,584,920	7,515,330
その他の費用			
売上原価	2,001,148		2,001,148
租税公課	1,250	200	1,450
地代家賃	46,047		46,047
諸会費	16,800		16,800
諸謝金	894,122	40,000	934,122
リース料	973,521	415,944	1,389,465
印刷製本費	1,920,565	1,200	1,921,765
荷造運賃	44,947	720	45,667
外注・委託費	300,033	51,840	351,873
賃借料・役務費	1,090,417		1,090,417
保険料		64,272	64,272
広告宣伝費	53,870		53,870
支払手数料	138,176	5,261	143,437
通信費	64,852	1,212	66,064
旅費交通費	692,661	120,000	812,661
会議費	8,480		8,480
消耗品費	898,384	9,356	907,740
経常費用合計	15,075,683	2,294,925	17,370,608
法人税・住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			1,296,164
前期繰越正味財産			5,085,446
正味財産合計			6,381,610

経常収益推移 (2013～2019年度)



2019年度 経常収益割合



河北瀉湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動して下さる方、応援して下さる方を待っています。

会員になる

当研究所では随時会員を募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

- 一般会員 年会費 個人12,000円、法人24,000円
研究所の活動目的に賛同いただける方はどなたでも会員になることができます。一般会員は研究所の活動、運営にかかわることができます。活動案内や通信、刊行物等も届きます。
- 友の会会員 年会費 2,000円
友の会は、どなたでも気軽に参加できる枠組みです。会員には活動案内や通信、刊行物等が届きます。

寄付をする

郵便振替、銀行振込、クレジットカードでのご寄付で当研究所の活動をご支援いただけます。

- 郵便振替
ゆうちょ銀行(振替口座) 00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北瀉湖沼研究所
*通信欄に寄付金とご記入ください。*ご住所とお名前を必ずご記入ください。
- 銀行振込
楽天銀行 第一営業支店 普通 093010
口座名義:トクヒ)カホクガタコショウケンキウジョ
- クレジットカード
下記URLより決済ページにおすすみください。
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml>

クレジットカード
でのご寄付はこちら



購入する

生きもの元気米やすずめ野菜等を下記ショップよりご購入いただけます。

- 河北瀉湖沼研究所のお米屋さん(生きもの元気米・七豊米等)
<http://kahokugata.cart.fc2.com/>
- すずめ野菜
<http://suzumeyasai.cart.fc2.com/>

お米屋さん



すずめ野菜



観察会や調査をする

河北瀉地域での自然観察会や体験イベントの実施、地域の自然環境に関する調査研究等を承っています。
まずはメールやFAX、お電話でお問い合わせください。

NPO法人河北瀉湖沼研究所(かほくがたこしょうけんきゅうじょ)
〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9
電話076-288-5803 fax076-255-6941
E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp
URL <http://kahokugata.sakura.ne.jp>

- Instagram・・・[kahokugata_lake_institute](https://www.instagram.com/kahokugata_lake_institute)
- twitter・・・[@kahokugatalake](https://twitter.com/kahokugatalake)
- facebook・・・[kahokugatalake](https://www.facebook.com/kahokugatalake)

